



Parlando

ばるらんど

「語りかけるように歌う」という意味の楽想記号です

No. 321

Contents

- ・【巻頭エッセー】
大学時代は好きをとことん追求して、世界を広げる時期
… 瀧川 淳 ●表紙
- ・ Welcome to our Library ●2～3
- ・ 図書館ホームページを活用しよう! ●4～5
- ・ こんなに便利! 図書館のデジタルサービス ●6
- ・ 館長室だより③… 図書館長 江澤聖子
2023年度ばるらんど総目次 ●7
- ・ Information ●8

【巻頭エッセー】

大学時代は好きをとことん追求して、世界を広げる時期 瀧川 淳

僕は小学校の高学年から高校卒業までカナダのトロントで過ごしました。中高時代は朝から晩まで吹奏楽ばかりしていた記憶が一番印象に残っています。この経験から、当然のように、吹奏楽を指導したいと思うようになったわけです。「それには教師になるのが一番だよ」と当時習っていた日本人のピアノの先生に言われるがまま、東京学芸大学を受験して、運よく合格することができました。

つまりクラシック音楽なんて大学に入学するまで、真面目に聴いたことも演奏したこともほとんどなかったのです。しかし、大学はクラシック音楽を学ぶところです。これは困ったと思って、図書館に駆け込んだのをつい最近のことに覚えています。なぜなら、この時に視聴覚室で聴いたベートーヴェン作曲交響曲第5番ハ短調作品67「運命」の演奏があまりにも衝撃的だったからです。演奏は、カルロス・クライバー指揮ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団¹⁾。こんなにもロックでカッコいい演奏がクラシックでもできるのか! そう感じた僕は、まずカルロス・クライバーの他の録音を手当たり次第聴きました。録音嫌いでも有名なこの指揮者の録音を全部聴くのにそれほど時間は必要ありませんでしたが、どの演奏も聴き手の魂を奮い立たせるような演奏でした。

また「運命」を他の指揮者はどのように演奏するのだろうか? そんな関心からも図書館に通い詰めました。ベームや朝比奈隆、そしてバーンスタイン、カラヤンといった指揮者はそれぞれ

とても個性的で、すてきな演奏を聴かせてくれました。さらに、ベートーヴェンは他にどんな曲があるのだろうかという興味にもつながりました。まずは他の8つの交響曲に始まり、ピアノ協奏曲やピアノ・ソナタなどへと広がりました。また例えば交響曲をキーワードに他の作曲家はどんな交響曲を作曲しているのだろうかという新たな興味が湧きます。そうやって大学時代に10,000枚以上のクラシックCDを聴いたでしょうか。

ひとつの興味は、点と点を線で結ぶようにつながるので。当然、指揮者や演奏家たちのことも知りたくなります。インターネットがない時代。図書館で検索しては、音楽家自身が書いた本、音楽家について書かれた本を手当たり次第読みました。通学中、週に3～4冊は読む日々を送りました。例えば、今年2月に惜しまれつつ亡くなった小澤征爾が武満徹と対談した『音楽』(新潮文庫)²⁾やフルトヴェングラーの『音と言葉』(新潮文庫)³⁾、ブルーノ・ワルターの『主題と変奏』(白水社)⁴⁾などは、大学時代に出会い、今でも愛読する素晴らしい書籍です。また團伊玖磨や岩城宏之が著したエッセイなども多く読みました。とにかく著名な音楽家たちの人生や思考に少しでも触れたかったのです。そしてそれが今の自分の音楽人生につながっています。ぜひみなさんも手当たり次第に自分のお気に入りの読み聴いて、そして世界を広げてみてください。

*請求番号●1) XD1519ほか、2) J99-682、3) J104-069ほか、4) C65-263

●たきかわ じゅん 本学准教授(音楽教育学)